

# 農家に再生可能エネルギーを！ 田舎のヒロインの奮闘



里山エナジー(株)代表取締役、  
NPO法人田舎のヒロインズ理事長

## 大津愛梨

おおつえり

ドイツ生まれ東京育ち。

慶應義塾大学環境情報学部卒業、

ミュンヘン工科大学留学。

熊本県南阿蘇村で環境に負荷の少ない農業を営みつつ

地域とともに新たな農業経営をめざす。



南阿蘇の雄大な自然の中で放牧されているあか牛。

## 農家を悩ます教育費問題

世界農業遺産にも認定された阿蘇の肥沃な大地とあふれる水源、放牧したあか牛と、かけまわる子どもたちで囲まれて笑顔の日々……、疲れきった都会人とはまったく別世界に住むようにみえる九州・熊本県南阿蘇村で環境に負荷の少ない農業を営む大津愛梨さん。しかし、もともとは東京の会社員の家庭に育ち、日本のIT(情報技術)のけん引役を次々輩出する慶應義塾大学SFC(湘南藤沢キャンパス)出身だという。その大津さんがエネルギー兼農業家計画を始動する。

**金子** 新規就農の場合、初期コストがかかります。借金してノウハウをイチから覚えてという新規就農の難しさから挫折して出ていく人が多い。大津さんの場合も「持続可能で環境に負荷の少ない農業」を実現するまでは大変だったでしょう。

**大津** 10年ほど前にはじめて当初は月給10万円でした。でも、私たちは

恵まれています。夫の叔父が一人身で後継者もおらず、その後継者として就農できたので。叔父は、米は植えればできる、何かあったり聞かれたら教えるけど、というスタンスで、とくに九州男児同士だし、一緒にやればケンカをしてしまうという持論もあって(笑)、米は2年目から私たちに任せて、子牛を放牧させて10カ月で売るあか牛の繁殖を再開させています。私たちは田んぼも機械も使っていない。売り先だけ見つければい

いというものでしたから。

しかもこの地域は、先見の明のあるグループで、20年くらい前から、阿蘇の20軒の農家で無農薬米の産直をしていたんです。水が豊富でありながら水がはける高原で、害虫が少なく無農薬をやりやすい場所でもあります。

**金子** 無農薬を始めるときには周囲の農家とのあつれきもあるというけど、それもなかった。どれくらいの農地を？

**大津** もともとは1町歩ちょっと(約3000坪)で、親戚から買った部分もあり、「やってくれ」と近隣の高齢の農家から借りた部分も合わせて5町歩。慶應時代の同世代の友人の間で食への関心が高く、年々口コミで増えて、生産も増やしています。

**金子** BtoCではないけど、生協などを介さずに完全に消費者に売る形なんですね。

**大津** 大学時代のネットワークには大いに支えられています。農大だと販路にはつながりにくそうですものね。米くらいみんな作っていいさうだから(笑)。

**金子** いや、農大もすごいですよ。薩摩の焼酎の醸造家は農大出身がいっぱいいますね。商品開発の面で刺激しあうので、飛躍的に味はマイルドになり、特化でき、いまや一大ブランドで

しよう。売り先にはならないけど、開発の面では大きな効果がある。たしかに、慶應SFC(湘南藤沢キャンパス)は消費者ばかりなので、そういうメリットはある。

**大津** 図々しいようですが、慶應の先生に会うたびにお願いしていることがあって、OBの関係が濃密な慶應に、産直農家を買収するネットワークを作れないかと。かりに、100世帯が1万円ずつ払えば、産直農家としてもベースとしてはやっていける。卒業生が就農して最初の1年は100軒の卒業生が買い支えます。そのネットワークが2年目以降、支えるかどうかは農家の実力次第ですけど。さらに、この買い支えと、農家の子女入学枠もできないかと。うちは子ども3人でお腹にもう一人もいってどうしても学費が払えないんですけど(笑)。取材当時は2015年6月で、8月に長女も誕生し



た)。農家がいつ無理をするかといえ  
ば、教育費なんですね。学費のほか  
に下宿費も払わないといけない。就  
労相談でも一番聞かれるのは奥さん、  
パートナーが、子供をどうやって育  
てようかと、自分たちは大学に行か  
せてもらえて、はたして自分たちの  
子供は？と。そこがクリアになっ  
たら、農家をやろうという女性も  
次々に出てくる。ドイツでは国費負  
担で学費なしですから。

**金子** 入学金・授業料と下宿代も含  
めたら2000万円近くになる。こ  
んなに高くなったのがおかしい。1  
970年代で国立大学は月1000  
円で1万2000円だった。我が身  
を振り返っても、大学院に入って3  
万6000円になって大騒ぎだった。  
いまから考えればのどかな話だ。学  
費が高いといっても、慶應は裕福な  
家のご子息が先生をやるのが前提  
なので、教授の給料は安いんですけ

同じ感覚でお金を使っていたから普  
通の家庭出身の祖父は苦勞した。そ  
の祖母を見て母親はああはなるもの  
か、自分で稼げるようになりたいと  
反骨精神で建築士になって、今でも  
仕事をしています。うちの母親は障  
がい者の家を設計することに特化し  
ていて、私も車椅子に乗せてもらっ  
たり、目の見えない人にピアノの弾  
き方を教えてもらったり、という育  
て方をしてもらった。彼らは家の中  
では暮らせるのに、外に出て、一緒  
に散歩に行くと、私が手を引かなけ  
ればならなかったり、苦勞している  
のを見て、地域計画とか町作りの勉  
強をしようと思つてSFCに行つ  
た。でも、当時はバブルの名残で駅  
前再開発とかニュータウン計画が中  
心。地域計画とかプランニングの専  
門の先生はいらっしゃらなかった。  
もう少し自然の景観をとり入れた人  
間にも優しい都市計画を勉強したい



取材当時は2015年6月。この取材の2カ月後に大津さんの長女が誕生した。

どね。それはともかく(笑)、大分の  
大山では、猫の額ほどの4反で直売  
で展開して夫婦とも共働きで年収1  
000万円というケースもあるには  
ある。

**大津** 土地利用型農業で儲けようと  
思ったらビニールハウスを建てて、  
直売にするというやり方もあります

と、ドイツに行きました。

**金子** 大学で農家の後継ぎである且  
那さんと知り合うわけですか。

**大津** 大学4年生のときに出会った  
んですが、九州男児で男っぽいのが  
カルチャーショックでした。彼のほ  
うが一本芯が通っていて、阿蘇の祖  
父母の家に毎年遊びに行っていた。  
ある年、遊びに行ったら、自分が遊  
んでいた川は護岸コンクリートに姿  
を変えていたのがショックで、白川  
の氾濫もあって、もう少し違ったや  
り方もあったはずだと、そこから環  
境に興味を持ちだして、SFCに行  
った。でも、思ったような勉強がで  
きない。東京農工大学大学院に一学  
期いて、一緒にドイツに行くことに  
なりました。

## ドイツで見た農家の姿

**金子** 海外に行くというプランクが

が、でもそれだと景観が守れない。  
そこがジレンマですね。

## ひよっとしてお嬢!?

**金子** もともと大津さんは景観、環  
境計画を勉強されていたんですよね。  
ここでパーソナルヒストリーをうか  
がきましょう。

**大津** ドイツで生まれ、生後8カ月  
で日本へ。育ちは東京でお茶の水女  
子大学の附属出身です。

**金子** 南阿蘇ではない、ひよっとし  
てお嬢!?

**大津** うちの母方の祖母などは本  
当にお嬢で<sup>やまとむら</sup>大和郷出身です。

**金子** 昔からの本当のお金持ちが住  
む文京区本駒込の大和郷。100坪  
以上2階建ての世界。話すのが嫌に  
なってきた(笑)。

**大津** 戦前、大和郷に畑があったほ  
どらしいんですけど、戦後も祖母は

あると、日本の企業は受け入れなく  
なる。企業にぶら下がって生きてい  
こうというメンタリティはなかった  
のですか。

**大津** 私が卒業した1997年に山  
一證券がつぶれたんですよ。そのこ  
ろに慶應を出てもそれまでのような  
仕事につけるような時代ではなくな  
っていました。

**金子** 本格的なバブルの崩壊だ。フ  
リッターなどの非正規雇用が増えだ  
す。

**大津** 最初の2年半は奨学金をいた  
だいていたんですけど、旦那が現地  
で所属していた地域の野球チームが  
優勝しリーグ昇格して、チームメイ  
トが帰すわけにはいかないと、1年  
ずれ込むという予定外のことが起き  
た。そのときに通訳のバイトを始め  
て、日本からくる視察団にドイツ語  
を日本語に通訳することがあった。  
ドイツの農家がエネルギーを作つて

## 酪農家に

# 「俺のプラント」と言わせたい 大津



いる姿を見て回ったときに、農家のおっちゃん「食べ物だけでなくエネルギーも作るし景観も守っているんだぜ」という姿がたまらなくなかった。こいと思っただけです。

**金子** バイトでエネルギー兼業農家をまわっているうちに地域分散型エ

ネルギーシステムと地産型のエネルギー兼業農家を知ってしまった。大津さんの見た13年前だとまだ広がり始めていないですよ。ドイツでは90年くらいから始まっているけど。  
**大津** いまほど多くなかったですけど、珍しくはなかったです。再生可

能エネルギーの固定価格買取制度はあったので、農家、民宿と売電でうちは成り立っていますと聞いた農家さんがあった。旦那ははずれ農家を継ぐし、どうせ農業をやるんだから、「食べ物だけでなくエネルギーも作るし景観も守っているんだぜ」と胸をはって言える農業をやりたいなと。ドイツで牧場のイメージを二人で見えたのは大きいです。夫婦二人ですぐにイメージ共有できますし、あああれね、と。  
**金子** 農協は口では言っていますが、まだまだ頭が古くて、必ずしも再生可能エネルギーには積極的ではありませんしね。

## 酪農家にプラントを

**金子** 日本で分散型エネルギーシステムというと、地方中小都市がほとんど。分散型にするためには農村が

エネルギーを作らないといけない。エネルギー兼業農家の本格的な第一号がそろそろ出てこないかと思っ

るところです。  
**大津** まだ結果が出ているわけではないんですけど、2015年、里山エナジーという事業会社を設立しました。この事業会社では、農業残渣や乳牛の出す糞尿でバイオガス施設を実際に作ってしまおうと、2016年から2017年には事業化にもっていきたいです。

牛のフンはどこにでもあるから成り立つ。家畜の糞尿処理が減って、においも減るし規模を拡大したい酪農家さんにとっては望ましいモデルです。熱利用はハウス栽培や余熱でチップを乾かす薪ボイラーやチップボイラーにする。本当はその熱で魚の養殖をしたい。阿蘇は温泉地なので旅館では刺身を出すんですが、せっかくなら水も豊富な阿蘇のものを

と。ただし、ノウハウが必要で初期コストもかかる。  
**金子** 山の中で、ふぐを養殖するケースもありますからね。

**大津** まずは熱需要もある酪農家さんのところとに1個作りたい。酪農家がエネルギーを作り、家畜の糞尿を処理し、液肥も臭くないと、うまくいったら自信になる。酪農家に「俺のプラント」と言わせたい。現状は、興味はあるけど自分が出資してまでプラントをやりたいという農家は少ないのですが、我れも我れもとなる流れを作りたい。

ただ、いま一番のネックは畜産敷料にオガ粉を使っていること。それを発酵槽に入れたときにスクリーンがつまるんじゃないかという懸念がある。外国のメーカーさんは大丈夫だと言っただけ、デンマークもドイツも麦わらで、実際にオガ粉を使っている国はないんですよ。

**金子** 生ごみを入れるのもありますよね。街と組んで街のごみなどを一緒にしてやれば、送配の問題があるけど、堆肥の熟成の問題もない。  
**大津** 阿蘇郡の生ごみは広域行政がやっていて、熊本県内で一番ごみ処理費用が高いんですけど、農家のプラントが形になってくれれば、自治体も生ごみのバイオガスに動いてくれるのではないかと期待しています。  
**金子** 自然エネルギーにはいろいろなパターンがある。太陽光、木質が畜産のバイオマスか小水力か、風力か。阿蘇ではどれに可能性があると

思いますか。  
**大津** 電気には小水力が可能性があるとありますね。九州電力もベース電力として小水力を買い取ると言っているから、水資源がはんぱない阿蘇は小水力。このあたりは30世帯が集落なんですけど、その電気が裏の川でできるはずなんです。マイク

口水力です。本当は大きな施設の電気は木質バイオマス。小集落はマイクロ水力というのが、個人的な理想です。

## ヒロインズ発電

**金子** 大津さんは農業で働く女性達がつながる組織「田舎のヒロインズ」の活動もやっていますね。

**大津** 田舎のヒロインズは周りの人が理解してくれない元気なおばちゃんたちが手弁当で先駆的な課題に取



NPO法人田舎のヒロインズとJA阿蘇フレッシュミズ共催で10月10日に熊本県南阿蘇村両併二区の「天神さん」とその周辺の田んぼで開催された「tambo ファッションショー～風景を着る～」の一幕。TPPで農産物の価格が下がった場合、農家が守っているこうした田園風景の維持ができなくなるかもしれない、というメッセージを含み、「農家がつくっているのは農産物だけではない」とアピール。

## 新しい農家経営の形を 実現してほしいね

金子

り組んできた団体です。農協とは関係なく続けてきた組織が20年も続いているのは珍しいそう、これからもつないでいきたいと言う。いまの社会の課題に取り組む組織として再生可能エネルギーを農家に増やすという運動に注力していいんだったら、やってもいいよと言ったら、それでもいいから、やってほしいと。2014年、代表を引き受けたんです。

女性農業者が、自分たちは農産物だけではなくて、エネルギーまで作れるんだという意識になってほしいと、作業しながら聞けるオンライン講座をやっています。ヒロインズ発電ですね。まずは1万円出資したらリターンがいくら、10万円出資、1

00万円出資したら、とファンド形式で地域発電に参加してもらおう。そのうちに、うちもプラントをという動きが加速すればいいかなと。

**金子** 農協も女性部がありますが、女性が農業に入ってくる、せいぜい6次産業にコミットするのが精一杯で、女性は担い手不足の救世主としての意味付けで終わっています。何とか風穴を開けて、日本に新しい農家経営の形を実現してほしいな。まずは成功例ですね。

**大津** ドイツも四半世紀かかっているし、焦ってはいません。農業では甘やかしてもらっているから、これで逃げ出したら怒られます(笑)。

(写真提供/田中二平)

## 大津愛梨さんからの手紙

4月16日の深夜に襲った熊本地震の「本震」。幸い我が家は家屋・家族ともに無事でしたが、電気と水が止まったため、明るくなったらまずは近くの水源へ行って飲み水を確保しました。次に、太陽光発電を売電から自立に切り替え、電気も確保しました。夜に備えてバッテリーにも貯めておき、夕暮れ後には照明を点けました。本震のあった日の晩に、水も電気も困らないほどあったのは、我が家だけだったでしょう。もともと農家は災害時に強いのですが、加えて、水源が近く、発電しているという強みにより、たとえ家屋が崩れても、しばらくは生きていくことができると確信しました。春なので、シイタケ、タケノコ、セリ等々、食材には事欠きません。灯油の備蓄もあれば、薪もあります。土鍋で炊くご飯に旬の野菜やとれたて卵。普段と変わらないか、都会の人から見ればむしろ贅沢な暮らしが災害時にも確保できていました。

今回の震災を通じて、「安全保障」というのはこういうことだろうと改めて感じました。災害多発国の日本に、食べ物もエネルギーも作る農家がたくさんいれば、「国土と国民の安全保障」といえるのではないのでしょうか。

2016年6月9日 大津

# 5

## それでも福島は よみがえる

東日本大震災から5年半が経ちました。しかし、いまだに人間と人間の生活は復興できていません。たしかに堤防、道路、橋梁などは徐々に整ってきており、高台移転も少しずつ進んでいます。ところが、高齢者だけが残り、多くの若者が地域から出て行ったまま戻ってきません。とりわけ原発事故が起きた福島は深刻です。にもかかわらず、メディア報道はめっきり減り、多くの人々を忘れさせようとしているかのようにさえ見えます。そのあり様は、いまのアベノミクスで麻酔漬けにしながら地域を切り捨て、産業衰退が止まらない日本の姿を集約しているかのように私には見えます。

経営責任を問わないまま東京電力をゾンビ状態で生き残らせ、そのために賠償費用や環境回復費用を「節約」し、20ミリシーベルト以下は除染せず、森林もダムも放置されたまま、住民たちに帰還を求めています。そこに日本の閉塞状況の元凶そのものが表出しています。その一方で、苦闘しながらも、現地で生涯を捧げる覚悟で取り組んでいる人たちがいます。どんな苦しい状況にも負けずに、住民のために福島環境回復に尽くす人々の営為にこそ、閉塞状況を切り拓いてゆく力があると私は思うのです。【金子】